

ツあんが何ば御意見をなされましても、馬の耳に風で、一向に應えまへん處からとう／＼三人共二階住ひと云ふ事になりました、御飯だけは下へ降りて喰べますが、濟むと直ぐに放り上げられます。コレ作治郎や無いか、俺しの背後をソツと通つて庭へ降りようと思ふてくさる、油断も隙もありやせん何しに降りるのぢや。鳥渡お手水へ遣つて貰ひますね。そんならさうと云ふて往きなさらんかい。コレ／＼其處は下の手水ぢやがナ。何故上の方へ這入りなさらん。ヘエ……アノ何んでおますね……下の手水から、一遍來て呉れと云ふ傳言が……『阿呆云を……』『イエあの……實は何んだすね。こない二階に許り居る物だすさかい。一遍下が歩きたふてな、せめて手水へ往く時丈けなと、下駄が履きたふおますね。身から出た錆ぢや。チト性根に入れなされ。早う往つてかう。ヘエ……ア、薩張りワヤや。ソツと出たると思つたら發見けよつた。……(便所の扉を開ける)ア、臭さ。餘り用事の無い時に來る所や無いナ……まアせめて此處から世間など見たるか……ア、横町の白犬が通つてよる。何や嬉しさうな顔に見える。……アア向ふから來るのは、町内の歩きしてよる市助やナ。オイ市助……オイ市助……』ヘエ……(捜す)誰方だすいナ。市助、俺しやがナ。此處や／＼。ヘエ／＼……ア、氣味悪る……聲はすれども姿は見えぬか……ア、怖わ……こゝん處ホン嫌ひや……晝でも狸が出やがんね……何奴ぢやいッ。ア、吃驚した。何ぢや大きな聲で……上を向いて見い、市助此處やがナ。オ、兄坊さんだすか、吃驚しました。此方が吃驚したがナ。』御氣嫌さんでおます。此頃暫くお眼に掛り

まへんが、どないしてはりました。實は此頃二階住ひや、一足も外へ出して貰はれへんね。……夫れに就いてなア市助、お前に折入つて頼みがあるのやが諾いて呉れへんか。ヘエ。そらモウ、他ならん貴所はんのお頼みだすさかい、どんな事でも致しますけども……併し何う云ふ御用でおます。今晩なア。是非共新町へ往かにや成らん約束がしてあるのや。處が今云ふた様な譯で出られへんやろ、其處で頼みといふのは、今日日が暮れて仕舞ふたら、お前梯子を持つてソと裏へ來てゝんか。俺しが様子を見計らうてエヘンと咳拂ひをする依つて、そしたら屋根へ梯子を掛けて呉れるのや、俺しは梯子で降りて新町へ往く。とまア斯う云ふ段取りや滅想な。謝つときます。そんな事が親旦那に知れたら、私がどない云ふて叱られるか解らしまへん、此お町内に置いて貰はれん様に成りますがな、夫れ丈は勘忍しとくなはれ。ア、左様か。……イヤ拘めへん／＼、豪い無理な事頼んで濟まなんだなア……お前が嫌やなら又他の人に頼むさかい、ちよつとも拘めへんで。併しやなア、まア斯んな事云ふのや

